

南アルプス市立小笠原小学校 第二回自己評価書

令和3年1月15日作成

校長： 飯久保一男	記述者・職名： 佐野紳二・教頭
学校教育目標 校訓「あかるく かしく たくましく」 教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」児童の育成 具体目標 (1) 労をいとわず働く子 (2) 自分を明るく表現できる子 (3) 進んで学ぼうとする子 (4) 思いやりがあり、礼儀正しい子 (5) 健康でたくましい子	
本年度の学校経営理念と方針 「喜んで登校し、満足して下校できる」明日が待たれる学校の創造 ①安全・安心な学校づくりの推進 ②教育の不易と流行の見定めと率先垂範による教育の推進 ③研究研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりの推進 ④楡形地区小中連携をとおして地域が一体となった教育の推進 ⑤学校評価システムによる学校経営の推進	
学校経営目標・具体的な取り組み 真の「かっこよさ」を求める子ども ①お互いを思いやる「かっこよさ」 学校教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」子どもの育成の意識化、共有化、日常化 小笠原流礼法の極意である「相手を大切に思う心」を「自然に表現できる」子どもの育成 ②お互いを高めあう「かっこよさ」 楽しくわかる授業と学力・教師力の向上 楽しい学校・学年・学級の創造 ③当たり前の「かっこよさ」 当たり前のことを積み重ねていくと、特別になる 基本的な生活習慣、学習習慣、行動習慣の定着 環境の整備	

I 評価方法
児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階になっている。 A：とても・よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。 そこで、A・B・C・Dの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数

で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5点以上になり、4点に近づいていく。

○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。

なお、保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない があるが、これは点数には含めていない。

Ⅱ 全体評価

○教職員の自己評価、児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも7月に実施した第1回学校評価と同様な傾向を示す評価であった。

- ・教職員の自己評価の結果は、32の質問項目に対し、すべての項目で評価の平均が3.0を上回る高い評価結果であった。
- ・児童アンケートの結果は、24の質問項目に対し、すべての項目で評価の平均が2.5以上のプラス評価であり、うち23の項目で評価の平均が3.0を上回る高い評価結果であった。
- ・保護者アンケートの結果は、20の評価項目のうち、17の項目で評価の平均が2.5以上のプラス評価だった。評価の平均が2.5を下回ったのは「ご家庭では、お子さんといっしょに本を読む時間を設けていますか。」「お子さんは、宿題の他にも家庭学習（塾や家庭教師は、除く）をしていますか。」「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか。」の3項目だった。

以上のことから、小笠原小学校では前期に引き続き、学校経営方針に基づいて教育目標の実現に向け、一人一人の教職員が保護者の理解と協力のもと、それぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると言える。

しかしながら、一つ一つの結果に目を向けてみると、マイナス評価の項目や、プラス評価ではあるがポイントが低い項目が各調査で見られる。教職員、児童、保護者のそれぞれの調査について、以下の「Ⅲ アンケートごとの評価」で考察し、課題を明らかにしていきたい。

Ⅲ アンケートごとの評価

教職員の自己評価アンケートについて

教職員の回答項目中には、平均ポイントが2.5を下回るマイナス評価の項目はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低い項目（平均ポイントが3.5未満の項目）が次の4つだった。

- | | | |
|------------|---|----------------|
| 学校の特色② | 「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的実施している」 | 3.29（7月比-0.25） |
| 学習指導・生活指導④ | 「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」 | 3.31（7月比+0.03） |
| 学習指導・生活指導⑨ | 「児童の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている」 | 3.46（7月比-0.15） |
| 地域との連携② | 「保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け情報の収集に努めている」 | 3.43（7月比-0.02） |

また、7月の調査と比較して評価のポイントが0.3以上低くなった項目が1つあった。

- | | | |
|----------|---------------------------------------|----------------|
| 学校経営・組織② | 「危機管理（防犯、防災）マニュアルが整備され、教職員に周知徹底されている」 | 3.56（7月比-0.30） |
|----------|---------------------------------------|----------------|

【考察・改善策】

評価の平均ポイントが3.5未満の4項目のうち3項目が、保護者や地域との連携に関わる項目だった。これらの評価が7月の調査に引き続き比較的低いことに共通した原因として考えられるのが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校及び学校再開後の「学校の新しい生活様式」に沿った学校生活の見直しによる影響である。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大勢の人が限られた空間に一堂に会するような学校行事は実施することが困難な中、運動会は分散開催というかたちで実施することができたが、授業参観や音楽会などの行事は実施することができなかった。学校・学年・学級だよりやホームページを用いて学校生活の様子を保護者に伝えるように努めたが、児童の活動する場面を実際に見ていただくことができなかったことで、地域や保護者との連携を図ることが難しいと感じた教職員が多かったものと思われる。現在のところ、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、感染症の予防策を講じながら、どのようにして教育活動の様子を保護者や地域に発信し、連携を図っていくかが課題である。

「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」についても、前期と同様に新型コロナウイルス感染症拡大に伴う約3か月に及んだ臨時休校の影響で、学習の進度に遅れが生じることを危惧した職員が多く、学習を進めていくことを優先した結果、思考力・判断力・表現力の育成に十分に時間を取れなかったことが影響していると考えられる。また、新学習指導要領の中で重視されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、これまでの学力観や指導方法を見直しが求められているが、一朝一夕にできるものではなく、その実現にはある程度の時間が必要だと考えられる。現在も校内研究を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいるが、さらに研究を進めていく必要があると感じている教職員が多いのではないかと。

「危機管理（防犯、防災）マニュアルが整備され、教職員に周知徹底されている」については、今年度、新たに予告なしの避難訓練を実施したり、出火場所の想定を変更した避難訓練を行ったりしたことにより、防災に対するが高まったと回答した教職員が多かった。その上で、改めて危機管理マニュアルを見直したときに、マニュアルに記載されている内容を十分に把握しきれていないと感じる教職員が多くなったと考えられる。また、防災を目的とした訓練が計画的に行われているのに対し、防犯を目的とした訓練が不足しているのではという指摘もあった。視覚的に分かりやすいマニュアルの整備や、防犯を目的とする訓練の実施にも取り組んでいきたい。

児童アンケートについて

児童の回答項目中には、平均ポイントが2.5を下回るマイナス評価の項目はなかったが、プラス評価の中でも評価の比較的低い項目（平均ポイントが3.25未満の項目）が次の6つだった。

「宿題の他に、家庭で自主学習をしていますか」	2.76（7月比-0.12）
「友だちに考えや感想を話したり、またはクラスみんなに発表したりできますか」	3.00（7月比-0.10）
「困ったとき相談できる先生はいますか」	3.01（7月比-0.12）
「困ったとき相談できる友達はいますか」	3.19（7月比±0.00）
「家の人に、学校での出来事や授業や活動の様子を話しますか」	3.24（7月比±0.00）
「はやね・はやおきをしていますか」	3.20（7月比-0.12）

【考察・改善策】

評価の低かった6項目のうち5項目は、前期児童アンケートでも同様な傾向（平均ポイントが3.25未満）が見られた項目である。また、昨年度11月の評価と比較してみても同様な傾向は続いており、本校の継続した課題であると考えられる。

「宿題の他に、家庭で自主学習をしていますか」は全項目の中で最も評価が低く、評価の平均が2点台だった。7月から家庭学習取組週間を設定して取り組みを促したり、他の児童の取り組みを学級内で紹介したりした結果、取り組む児童が増えてきた学年も見られた。「宿題を忘れずにしていますか」の評価はとても高い（評価の平均値：3.55）ので、児童も宿題を忘れずしっかりとやる意識が高く、自主学習はあまり重視していないという現状もあるのかも知れない。家庭学習週間の取り組みを継続すること、家庭学習の手引きの改善を図ることなどの取り組みを行っていききたい。

「友だちに考えや感想を話したり、またはクラスみんなに発表したりできますか」については、ペアや小集団学習の中で、自分の考えを発信する経験を重ねていくことが必要だと考える。授業中の対話的な学びを意図的に授業の中に取り入れたり、児童に関わりのスキルやコツを身につけさせるために取り組んでいる「あやめっ子タイム」を継続していったりすることで、児童の発言を促していききたい。

「困ったときに相談できる先生はいますか」「困ったときに相談できる友達はいますか」「家の人に、学校での出来事や授業や活動の様子を話しますか」といった項目に対する評価ポイントが低いことから、自分のことをうまく他者に伝えられないと感じている児童が多いとみることができる。児童の一番身近にいる教師や保護者が、受容的な姿勢で児童の話に耳を傾けることを意識していくことが大切だろう。

児童アンケートの結果全体に目を向けてみると、前年度や7月の調査と比較して全体的に評価が低くなっている項目が見られた。はっきりとした因果関係は明らかになっていないが、新型コロナウイルス感染拡大への不安や、感染症対策として通常行われていた学校行事が規模の縮小や中止となったこと、日常生活の中でも我慢をしたり、新しい生活様式に沿って様々な規制を強いられ続けていることで、児童は普段よりも大きなストレスを感じている可能性もあると思われる。今後も児童の心のケアには十分留意していききたい。

保護者アンケートについて

保護者の回答項目中、マイナス評価の項目は次の3項目だった。

「ご家庭では、お子さんといっしょに本を読む時間を設けていますか」 2. 12（7月比+0.04）

「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」 2. 36（7月比-0.04）

「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか」
2. 49（前年比+0.07）

【考察・改善策】

「ご家庭では、お子さんといっしょに本を読む時間を設けていますか」は、7月に続き、保護者アンケートの中で最も評価が低かった。PTA文化部による「親子読書」への取り組みは行われたが、親子で読書をする時間はなかなかつくれるのが現状のようである。また、評価を学年ごとに比較してみると、学年が進むにつれて評価が低くなっている。児童が成長するにつれて「親子で一緒に本を読む」ことを嫌がる傾向にあることが見てとれる。親子で一緒に読書をするのは難しくても、児童に読書の習慣を身に付けさせるためにも、今後も継続して親子読書や家読、朝読書、読書週間の取り組みなどを継続して行っていききたい。

「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」については、家庭学習についての評価は低かったのに対し、宿題についての質問「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか」の評価は児童アンケートと同様に、保護者アンケートでも高かった。（評価の平均値：3.73）学校から出される宿題や課題にしっかりと取り組んでいる児童の姿がこの結果からも浮き彫りとなってくる。家庭学習週間の取り組みを継続するとともに、保護者への周知や協力の要請にも力を入れていきたい。

「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか」についても、児童アンケートの項で述べたように、受容的な姿勢で児童の話に耳を傾けていくとともに、「あやめっ子タイム」の取組や受容的な雰囲気のある学級集団作りに継続して取り組んでいきたい。

また、今回のアンケート調査では、マイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも低いポイントの項目が2つあった。

「PTA活動に参加していますか」 2. 56 (7月比+0. 02)

「お子さんの教育で悩みがありますか」 2. 56 (7月比+0. 03)

【考察・改善策】

「PTA活動への参加」については、教職員の自己評価の項でも述べたように、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施できない活動が多くなり、評価が低くなるのはやむを得ない面もある。新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、どんなことがPTA活動としてできるか、来年度に向けてPTA役員の方々と共に考えていきたい。

「お子さんの教育で悩みがありますか」では、悩みが「ある」と回答した保護者が50. 8%と、前期学校評価に引き続き、約半数の保護者が児童の教育のことで悩みがあると回答していることが分かった。過去のアンケート結果を見ても、毎年約半数近くの保護者が「児童の教育で悩みがある」と回答していることから、どのようにして保護者の悩みに対応する相談体制を構築するかが大切だと考える。各学級において、保護者との情報交換を密にし、児童の様子について相互理解を図る必要がある。電話連絡や連絡帳を使って情報交換を行ったり、学年・学級部会等の機会を大切にしたりすることで、保護者との連携に努めていきたい。

本校では養護教諭・特別支援コーディネーターを中心にSC（スクールカウンセラー）や市の子育て支援課など、さまざまな相談機関や医療機関に繋いだり、連携して支援にあたったりするシステムが整っている。必要に応じてこれらを活用し、保護者の悩みを受け止め、児童の健やかな発達につなげていきたい。

IV ま と め

アンケート調査の結果から、本校の教職員が学校長の示す学校経営理念と方針・学校経営目標を、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。また、そうした教職員の姿勢が、児童が楽しく、充実した学校生活を送ることができることにつながっており、保護者からも一定の評価をいただいていると考えられる。

児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去の評価結果と比較すると、いずれも同程度の評価であった。今年度も安定した学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。しかしながら、児童アンケート、保護者アンケートの結果において評価の低かった項目は、いずれも前年度より前から低い傾向が継続しており、長期間にわたって本校の課題となっていると考えられる。今後もより一層、教職員と保護者、地域の方々が目標を共有し、児童の健全な育成に向け、真摯に努力を重ねていく必要があるだろう。

昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症拡大は現在も収束の兆しが見えず、今後の見通しも不透明な状態が続いている。児童アンケートの結果を見ても、新型コロナウイルス感染症の拡大と感染防止のための新しい生活様式は、有形・無形のストレスとして児童の心理状態に影響を与えている可能性がある。特に来年度の教育活動の計画においては、with コロナの世の中で、どのようにして児童の学びを確保していくかを検討していく必要がある。

第1回学校評価のまとめでも述べたが、学校は本来「学びの場」であり、やはり1時間1時間の授業の充実が、よりよい学校づくりの基盤となっていこう。学校長が本年度のグランドデザインの中で示す「教師は授業で勝負するという気迫を持った教師力」を更に伸ばしていくように一人一人が心がけていくとともに、「小笠原小学校全職員の英知を結集した学校力」を児童のよりよい成長のために発揮できるよう、保護者や地域住民の方々と連携を図りながら、協力して児童の教育を行っていきたい。